（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成21年11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７２７００５０４		
法人名	社会福祉法人尚生会		
事業所名	指定認知症高齢者グループホーム　グリーンハウスとちぎ		
所在地	栃木県芳賀郡茂木町茂木６３－２８ （電　話）０２８５－６４－３２７７		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成21年9月17日	評価確定日	平成21年11月4日

【情報提供票より】（平成21年8月25日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成15年12月1日	
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計　18 人
職員数	７ 人 ６ 人	常勤7人（兼務1人），常勤換算5.9人 常勤6人（兼務１人），常勤換算5.2人

（２）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	9,120円	その他の経費（月額）	・生活関連費（水光熱費、日用品費）―30,000円 ・理美容代、おむつ代―実費 ・行事参加費、クラブ材料費、複写物―実費	
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	―
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（平成21年8月25日現在　）

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性　16 名
要介護１		3 名	要介護２		5 名
要介護３		8 名	要介護４		2 名
要介護５		名	要支援２		名
年齢	平均	85.8 歳	最低	79 歳	最高　97 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	石本病院、今井医院、県西総合病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、真岡鐵道の茂木駅に近く、幹線道路からは一本奥まった場所に位置し、敷地に対する建物の配置が工夫されており、静かな環境が保たれている。2ユニットのグループホームであり、同じ建物内には訪問介護、訪問入浴の居宅介護支援事業所が併設されている。事業所の運営や支援については、事業所の多機能性に加え、2ユニット事業所の特性を活かした運営がなされており、併設事業の機能を十分に活用するなど、事業所の持てる力を存分に活かしている。職員は自らの総意として掲げた事業所の事業所の理念である「みんなが笑顔で生活を楽しむホーム」を目指し、常に入居者の笑顔が見られるよう、その理念の実現に向けて取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価での課題から、より地域に開かれた事業所となるよう、地域住民向けに認知症介護相談や介護予防の講座を行うなど、事業所の持てる機能を積極的に地域に提供することによって、地域の住民との交流が高まってきている。また、運営推進会議の議題や協議内容を職員に周知徹底することにより、入居者への支援等に繋げるなど、会議の主旨が十分に活かされるようになってきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	評価の意義や評価項目については、職員会議等を通じて周知徹底されており、評価に対する意識は高く、職員一人ひとりが積極的に自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議の主な議題としては、ホームの事業報告、事業計画、消防計画、入退所状況、インフルエンザ対策等が取り上げられている。会議では、職員が議題について資料を基に丁寧な説明や報告を行い、参加者から意見や助言をもらっている。これら会議の協議内容は職員に周知されており、入居者へのサービス向上への大切な情報源として活されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族へは、毎月請求書を送付する際に写真入りで生活状況を報告している他、定期的に担当職員から近況報告が行われている。また、家族からの意見や要望等については、アンケートや面談によってうかがっている。家族から出された意見や要望等については、職員会議に報告され職員間での共有が図られており、諸問題の解決や改善に努めるなど積極的に家族等の意見を反映させた運営が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域からは、地域のコーラス会や民話の会等が事業所に発表に来所してくれたり、地域のお祭りの際には町内会の山車が事業所に立ち寄ってくれる等、地域における事業所の認知度は高まっている。また、事業所からは、認知症や介護に関する情報を発信する等、事業所の機能を地域に提供することによって、地域住民との連携を深めている。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの「安心と責任」という法人理念を基に、職員全員で地域密着型サービスとは何かについて協議し、職員の総意としてまとめた「皆が笑顔で生活を楽しむホーム」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員の目に触れるように、事業所の理念を事務所内に掲示するとともに、毎月開催している職員会議で理念の確認を行い、共有に努めている。「家」に居る雰囲気づくりを心がけるとともに、散歩やドライブなどの日常活動にも常に入居者の笑顔が見られるよう、理念の実現に努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、回覧板の回覧もおこなっている。事業所の行事も可能な限り近隣住民にも参加を呼びかけており、地域に開かれたものとなるように心懸けている。認知症の介護相談や介護予防に関する講習会を開くなど、事業所の持てる機能を地域に提供している。また、地域住民側からも、地域のコーラス会や民話の会等が発表に来所してくれたり、地域のお祭りの際には、町内会の山車が事業所に立ち寄ってくれるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については職員会議等を通じて周知され、十分な理解が得られている。評価結果に関しても職員会議等を通じて十分に周知されている。今後は、個々の改善項目毎に小委員会を立ち上げ、現場の意見を吸い上げながら、できることから積み上げて、具体的改善に結びつけることを目標としている。	○	改善委員会の立ち上げなど、改善システムの構築は評価の活用にとって大切な事であり、現在進めている具体的な改善策が実施につながる事を期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年４回ほど開かれている。会議参加者は、入居者家族代表、地区民生委員、居宅ケアマネージャー、町の担当職員等であり、ホームの運営状況を説明したり、地域に関することやその他諸々の意見交換を行っている。会議で出された意見や要望等の情報は全職員に周知され、現場でのサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは密に連絡を取り合い、問題の大小に係わらず、運営上の諸問題の相談や入退所状況等の状況報告をこまめに行い、情報の共有に努め、町と連携を図りながらサービスの向上を目指している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送付する際に写真入りで入居者の生活状況を報告している。また、３か月に１度、担当職員による体調や日常生活の状況等の近況報告を行っている。さらに、「グリーン情報」という広報誌により、入居者の様子や事業所全体の行事等も把握できるような情報提供を定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族等へのアンケートの実施や直接の面談によって、意見や要望等の収集に努めている。意見や要望等が出された場合は職員会議にて議題とする他、申し送りノートも活用して職員間での共有を図り、諸問題の解決・改善に努めるなど、積極的に家族等の意見を反映させた運営を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意向調査を基に、3～5年を目安に職員の異動が行われている。職員の異動に当たっては1か月程度の引き継ぎ期間を設けたり、新人の就業に際しても、1か月程度先輩職員が指導につくなど、入居者への影響をできるだけ少なくする配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は実践に重きを置き、外部研修と内部研修の両方で職員の質の向上を図っている。法人としての内部研修は、１年次、２年次などの就業年次に応じた研修体系が組まれている。外部研修は、職員の希望による他、事業所長の判断に基づいて適宜派遣されている。また、事業所として、経験に応じた資格取得の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、法人内の同種の事業所との連携や情報交換が主となっているが、今後は、法人外の同種事業者との交流も併せて促進したいという目標を持っている。	○	隣接市町村の同業者とのネットワークを作り、各事業所間で相互見学会等を実施するなどの情報交換を行い、さらなるサービスの質の向上に向けた取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者等には、入居前に1泊程度の「お試し利用」や事前に何度か事業所に来所してもらい、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。また、ケースによっては、同法人の在宅サービスを先行して利用してもらう等、様態に応じて臨機応変に対応をしている。入居後は2週間程度のモニタリングを行い、入居者への理解に努め、職員間でも申し送りをするなどして、ホームでの生活に馴染めるように配慮している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には、施設介護ではなく、あくまでも在宅介護の立場から職務に従事するように指導している。また、事業所のスローガンである「皆が笑顔で生活を楽しむホーム」の実現のため、入居者のペースに合わせる関係作りを行えるよう、職員会議等で徹底指導されている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者の思いや要望を把握するように努め、事業所だけでは難しいときは家族等からの協力も得て、可能な限り入居者本位での生活を支えられるように努めている。また、一人ひとりの「思い」を大切にするため、職員間の申し送りを大切にし、入居者の思いの実現に努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を基に、個々のケース会議で検討を行い介護計画を作成している。医師からの指示や助言がある場合は、それを踏まえた介護計画を作成している。また、個別の要望等は可能な限り全体計画の中に取り込んで介護計画全体のボトムアップも図っている。	○	介護計画の内容が一様化しないように、普段実践している介護上の工夫やアイデアを介護計画に盛り込み、さらなるサービスの向上に資する介護計画の作成に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、モニタリングを実施しながら状態の変化があった場合には、職員の申し送りや連絡メモ等を基に介護計画の見直しやケアの統一を図っている。また、家族には、訪問時に随時その介護計画を確認してもらっている。	○	介護計画の見直しや変更時には、家族の意向や家族との話し合い等も踏まえた介護計画書となることを期待したい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	２ユニットの利点を活かし、ユニット間で連携して通院や買い物、個別の外出など柔軟な対応に努めている。ホームの浴槽で入浴が難しい時には、併設の訪問入浴介護による入浴サービスを利用するなど、併設事業との多機能性を活かした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で協力医療機関か在宅時のかかりつけ医のどちらかを選択してもらっている。どちらを選択するかは本人や家族の意向を大切にしている。協力医療機関への受診は職員が対応し、かかりつけ医等の他院への受診は原則として家族に対応してもらっているが、家族の付添いが困難な場合は職員が対応することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、同法人の他施設や事業、または適切と思われる他法人施設や事業等を積極的に活用するという方針を基に、入居者や家族と話し合い、医療機関との連携も含めて、予め共通した認識を持つように努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の失敗があった時は居室で着替えるようにするなど、入居者の尊厳に配慮した支援を心がけている。事務処理上では、日誌や各種記録等で入居者の氏名を複数人で共有する場合等には、氏名は使わずイニシャルで表記したり、コンピュータファイルの扱いも事業所内だけに限定するなど、個人情報の扱いについては常に注意し、職員への指導、浸透も図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望にそって支援をすることを第一に心がけている。しかし、職員数の問題や事業所としてのスケジュール等の関係から、入居者の希望が十分に満たされているかどうかを常に気を配っているが、個々人への対応を十分に行っていくことの難しさを日々感じている。	○	一人ひとりの暮らしに全てを合わせることは難しいが、1日の流れの中で本人のやりたいことが一つでも実現できるように、時間を調整し、その人らしい生活ができるような環境作りを期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできる範囲で食事の準備や後片付け、調理にも参加してもらい生活感を実感してもらっている。また、箸や茶碗等の食器類は自分の好みのものを使ってもらうなど、食事を楽しんでいただけるように工夫している。食材の購入も可能な限り職員と一緒に近くのお店に買い出しに出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに午後の時間帯に入浴をしている。希望があれば毎日でも入浴できる。また、入居者の身体状況に併せて洗身介助も行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や掃除、テーブル拭き等の入居者それぞれの役割を職員も積極的に支援しており、張りのある生活となるように工夫している。また、趣味や嗜好についても、生け花、書道、創作活動、音楽などできるだけ楽しむ機会を多く設け、明るく自由に楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い出し、近隣への散歩、庭での体操等、できる限り外出の機会を設けている。また、花見のドライブや夕涼み会などの季節的な行事を主体として、月一度の全員での外出の機会を設けるなど積極的に外出支援を心がけている。	○	入居者一人ひとりの要望に答えることは困難なことだが、可能な限り、一人ひとりの要望に沿った外出支援がおこなえる体制づくりに期待したい。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーチャイムを設置しており、危険防止策とするとともに職員の見守りのもとで日中の施錠はしていない。ただし、年間を通して施錠時間を16時30分としている。	○	入居者の現況を配慮した安全対策も大切ではあるが、夕刻の施錠時間については、季節を考慮した施錠時刻の変更という方法も検討し、可能な限り開錠時間が延長されることを期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを整備し、年２回の避難訓練を行っている。避難にあたっては、近隣住民からの支援を得られるよう、協力を依頼している。現在、消防設備としてのスプリンクラーの設置を予定している。	○	有事の際に備え、近隣住民を交えた避難訓練の実施など、地域と連携した避難訓練の実施に向けた取り組みに期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の管理栄養士が作成したものを参考にして立てている。職員は入居者と同じ食事を摂り、入居者一人ひとりの摂取量を把握し、給食日誌に記録している。また、水分摂取量は必要に応じて記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間作りのため、近隣住民からもらった季節の花を飾ったり、入居者の制作した作品を飾っている。生活の場としての空間を大切にしており、特に臭いや家具類の配置にも気を使っている。廊下には、腰を下ろして休めたり、入居者同士の会話ができるようにソファーを置き、別空間としても利用できるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地良く過ごせるように、使い慣れた家具や好みの飾り物などの持ち込みを推奨している。個人差はあるが、思い出の写真や壁掛けを飾ったり、仏壇を置いている入居者も見られた。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。